

# 平成23年度 杉森中学校 第7回学校運営協議会 会議録

日時 平成 23 年 11 月 16 日(水)

運営協議会 17 時 00 分～19 時 00 分

会場 杉森中学校 会議室

出席者

|         |    |        |
|---------|----|--------|
| 《協議会委員》 | 石田 | 壽文     |
|         | 高崎 | 彰      |
|         | 大川 | 洋      |
|         | 松本 | 美智子    |
|         | 安藤 | 雄太     |
|         | 由井 | 営太郎    |
|         | 大熊 | 康子     |
|         | 大橋 | 亮介(校長) |



|            |     |            |
|------------|-----|------------|
| 《杉森中学校事務局》 | 田邊  | 克宣(副校長)    |
|            | 白井  | 克幸(教務主任)   |
|            | 松尾  | 宏(生活指導主任)  |
|            | 金子  | 敏治(進路指導主任) |
|            | 長谷川 | 祐子(囑託事務)   |



司 会  
A委員

それでは始めましょう。

10月には本校一大イベント「合唱コン」がありました。私も最初から最後まできいていましたが、非常にレベルアップされていたと思います。

風見前校長先生が講評をしてくださいましたね。また、大橋校長先生が「こんなすばらしい学校にこられてよかった」とおっしゃっていました。保護者の方からも素敵なお挨拶だったとの声がありましたよ。

道徳授業区公開講座は先生方も準備が大変だったと思いますが、お疲れ様でした。

校 長

合唱コンのご参観ありがとうございました。前年度よりレベルアップしたとのお話しでしたが、来年も一層レベルアップしていく事でしょう。11/5 公開授業がありました。午後は生徒たちも一緒に講演会を聞きました。11/8に2年生が連合音楽会に参加して、合唱を披露しました。表現力が素晴らしかったです。朝練習では声が出ていないと心配しましたが、本番では歌の内容をよく理解し、表現しできた非常によい合唱でした。(順番が)最後に歌ったのもよかったのではないのでしょうか。

副校長

10/5 幼小中合同研究会がありましたが、副校長会で相談しながら次年度に向けて連携を取り合っていく予定です。

今月は期末テストに続き、3年生の進路指導もあります。杉森祭の準備も22日から始まります。内容は昨年と大きく変わりません。杉森祭には、杉一小・杉九小・朝鮮第九初級学校が来校します。ぜひ足をお運びください。

司 会  
教務主任

では先生方のご報告をお願いします。

11/18より期末テストがあります。早い学校では今日から期末テストという所もありますね。

12/3の杉森祭は午後からになります。その日の夕方からは神明宮のボランティア予定です。1年生が参加します。

11月に3年のみ、12/6～12まで5日間の三者面談があります。

11日(日)区の駅伝大会があります。今年も青梅街道を走ります。1～3年の選手が放課後練習しています。よい結果が聞けるのではないのでしょうか。12月は大きな行事もないので、学習に時間をかけられるのではと思っています。

22日が終業式です。12/14運営協議会予定です。



生活指導

3年の面談がありました。1年生には「あと2年で入試だ。2年後の今頃は…」という話をしました。入試について考えさせる機会ではと思いました。ふれあい月間で「いじめ」「不登校」の調査がありました。本校では各クラス担任が対策に当たるようになっています。

予鈴がなると席につけるようになりましたが、授業はたまにうるさいようです。工夫をして静かになるようにしたいです。

駅伝は3年生がテストや受験があり大変な時期ですが、希望者が参加します。駅伝には反対意見もありますが…。

B委員

反対意見というのは？

生活指導

生徒たちのアンケートでは賛成が多いのですが、駅伝運営に費用がかかるという意見があります。「一部の生徒だけ良い思いをして…」と「予算を他に使ったほうがいいのか」という意見もあるようです。

A委員

今年が最後という話もあるようですが。

教務主任

10周年記念のときにそういう話もでしたが…。

A委員

青梅街道という普通は走れない所を走るというのに価値があるのでは。お金がかかるからというだけでなくしてしまうのはどうなんでしょう。これからその経験が、高校・大学へと続いていくのですから。

生活指導

走った生徒にとっては、すごく良い経験でした。「部活動でやればいいじゃないか」という意見もあります。

司 会

中体連主催ではないんですね。

生活指導

違います。区の大会です。

進路指導

3年生は三者面談が終わり、期末考査後に再び三者面談があります。合唱コンも終わり、食育の授業があります。去年は立体的なものを作り発表しましたが、今年はパワーポイントで発表をするという事になっています。1年生は職業調べが始まりました。

伝統芸能鑑賞教室、今年は能を鑑賞しましたが、今年は落語家を学

校にお呼びして、学校寄席を考えています。

司 会  
教務主任 都立高の入試選抜についてはいかがですか。

保護者の方には 9 月の説明会でお話ししました。昨年とほとんど変更はありません。自己 PR カードは推薦のある学校でのみ使い一般は入学後に使います。記入内容が多少変わりました。

2 階に入試の流れの一覧が掲示されています。

司 会 都教委としての鳴り物入りの新しい学校づくりはあるのでしょうか。

教務主任 昨年度でほぼ完成しました。

A 委員 進学指導重点校や推進校は推薦をやめるという話もありますが。

教務主任 それらの学校は作文や論文を取り入れるようになってきました。作文といってもただ書けばよいというものではなく、日比谷・戸山などは「社会」「理科」などの知識も必要な作文を要求されます。

これから「どういった論文を書けばよいのか」ということを紹介していこうと思っています。小論文で得点差をつけるので、オール 5 でも不合格になる場合もあります。

A 委員 昔は西校に入った数で学校の評価がきまりましたが…。

教務主任 群で平等にと言っていた時代から、群がなくなり都立高の差別化も進んでいます。

A 委員 小中一貫のコーディネーターとは？

副校長 教員の中においでいます。

教務主任 中学を基準にやっています。杉一・馬橋・杉森というようなセットが何校かあります。阿佐中には杉一から入学する児童が多いのですが、杉六・杉七とセットになっています。実際は人数的に問題があるのですが…。学校間が近ければよいのですが、児童を中学校に移動させるだけでも、結構時間がかかってしまいます。

A 委員 杉森祭は学校の行事としてとりあげるそうですね。文化祭色合いが濃くなるのでは？美術・技術の発表もあるといいのでは？

教務主任 生徒会の紹介(例年通り)になると思います。技術・美術は別の機会に展示することが決まっています。 《事務局退室》

司 会 来年度の人事についての文案を検討しました。また、職場体験についての案を検討したいと思います。管理職人事について私たちが検討します。10 月 28 日に新潟のコンベンションセンターで学校づくり推進協議会があり、参加いたしました。色々な学校運営協議会がありましたが、各校さまざまで、本校とあてはまるような学校はなかなかあ

- 司 会 りませんでした。文科省から学校評価を充実させてほしいということでした。 第三者評価についてはほとんどの学校がやっていないとの事でしたが…。
- A 委員 お手元に学校運営に関わる意見書というものをおくばりました。前回「意見書として提出するのがよいのではないだろうか」ということで、原案を作りました。これでよろしければ提出したいと思います。
- 校 長 職場体験に関しまして、いくつか意見を伺っています。授業確保になれば大きいことです。
- 本校ではやっていませんが、夏季休暇を早めに繰り上げる・土曜日に授業をする事をすれば実質的には問題はありません。
- 夏季休業中にやることになれば、教員の時間確保などあり期間は限定されるかもしれません。部活や、パワーアップ教室もあるので日程の取りかたが難しいかもしれませんね。
- 司 会 それぞれ委員の方からご意見をいただき、原案のほうに反映させたいと思います。5 日間を 3 日間という意見もでたのですが、5 日間である意味を考えるとそれにまた意義があるのではないかと。
- 総合的学習に含むとなると…。
- B 委員 日程の問題ではなく、職場体験が有意義であるということが前提ですね。前後の学習を学校で共有するという事が 5 日間必要だ、という話しがでてきましたよね。最初のきっかけは保護者会から声…。もう少しコンパクトでいいのではないですか。
- 夏休みなどの時間をつかい、体験の幅や広さを重視していくという組み立て方の工夫が必要ですね。特定の企業がわかってしまわないように、文言の整理も必要ですね。
- 司 会 選択肢が少なすぎるのが、問題ということでしたからね。「体験する職業の幅が少ない」ということです。
- C 委員 職場体験活動をするというのは、時代の認識になってきています。ゲームで遊ぶのが中心の世の中で、社会性をどう育てるのか…。



C 委員

七五三問題というのがあります。

中卒で就職した場合の離職率は 7 割

高卒で就職した場合の離職率は 5 割

大卒で就職した場合の離職率は 3 割という調査結果があります。ずっと条件の悪いところで働くか、ニートになってしまうか…。若年者のうち 70 万人が引きこもり、年齢の高い人を含めると NHK の福祉ネットワーク調べで 160 万人が引きこもりで、たまに外出するというのも含めると 300 万人といわれています。日本社会の病理を象徴しています。2007 年に出た、若年者ニートの実態および支援策および実態調査によると、ニートの若者意識面の特性は①将来に希望が持てない。②対人関係が苦手③仕事に多くを期待しない。その 3 点だといえるそうです。自尊感情がとにかく低い。仕事に行っても人と話しができない。質問ができない。失敗して「もうだめだ」と求職活動もできない。「学力、学力」という前にもっと必要なものがあるのでは。

2009 年の PISA の調査では読解力が重要であるといわれています。体験活動のさかんな学校ほど読解力が高い。30 点以上の差がつくほどです。職業体験などの体験活動が、学力向上の鍵になっている。

授業時間の確保という単純な発想ではありません。「生きて働く力」になっていくんです。3 日間と 5 日間という問題ですが、5 日いてこそ職場の人に慣れて主体的に動けるようになっていくのではないのでしょうか。その部分をどう考えているのか…というのが心配です。

B 委員

プログラムの作り方によっては 3 日間でも意味合いを持ってくるのでは。子どもたちが振り返って見るのが十分ではないのでは。

ワークショップで議論するという機会でもあれば日数は多くなくてもよいのではないのでしょうか。何日もただお客様のように行くだけでは意味がありませんよね。

C 委員

杉森では職業調べから始まり、経験から学び取る力を振り返ってディスカッションしたり、発表したりすることはすごく大事ですね。冊子がまとまりましたが、「生きることとは」「働くこととは」ということがあまり感じられない。職業調べの延長になってしまっている。

もっと勤労感・生きがいなどをインタビューしてもいいのでは。もう少しふくらみをつけて取り込んでいったらよいのではないのでしょうか。体験先が少ないということは地域の教育力が低いととられてしまいかねません。

司 会 教育委員会から現状ではむしろ授業時数を増やすようにという指導がある中、授業時数増加＝学力向上につながるというものではないですね。学力向上のためには直接体験が必要であるということ、日にちの問題。行政として何日にするかということではなく、学校として相談しながら決めていくのがよいのではないのでしょうか。

会長さんのほうに文言をみなおしてもらいましょう。

この地域の体験先が極めて少ないということは、地域の協力が少ないということではないと思うんですよね。小売店が多いとお年寄りが多く、何日間も体験させていただくのが不可能になってくるとか…。杉並地区だけではなく、他の区で職場体験させてもらってもよいのでは。この地域だけでは限界があります。

B 委員 杉並にこだわらなくてもいいのではないですか。職業観は他にもいっぱいあるんですから。自分の仕事を探していく…。夢を追っていく…。という気持ちをはくぐむためにやるべきですね。授業時間の確保を目的にやるのではなく。それを教育委員会に強くプッシュしてほしい。

司 会 スペースシャトルの部品だって江戸川区の工場で作っているんですよ。零細工場の技術があればこそ、スペースシャトルが飛ぶ…。とそんなことに気づくのもいいかもしれませんよね。

D 委員 今、うちは商店街に職場体験の子たちが来ています。都立富士高校付属中学から手紙が来たんです。そういう場合、受け手側に対する説明不足を感じました。「5 日間ただあずかって、何をさせれば？」学校側は子どもたちのことを十分に考えて送り出してはいるようですが…。担当の先生が地元どんな職場や職業があるかをほとんどわかっていない気がします。先生方もお忙しいでしょうが、体験先を 3 ヶ月か 4 ヶ月前からもう少しよく見ていただくという事に時間をかけてほしいですね。

司 会 中野では商店街のリーダーの方から「教員から個々に説明するのではなく、リーダーにまとめて説明してほしい」という要望があり、5 日間の体験は実現していません。これは商店街の地域性にもよりますが、杉並はどうなんでしょうね。

D 委員 私の商店街には 100 件ほどの店があります。受け入れられる店・受け入れられない店があるので、3 軒ほど適した店をピックアップしました。(小売・定食屋など) まずは商店会長さんに職場体験の趣旨を理解していただいてから、商店会長にピックアップしてもらい、引き受けてくれたところに、先生方が説明に来ていただけたらと思

います。

- 司 会 最近は色々な店があり、5日間の体験をお願いするのも大変ですね。
- D委員 積極的な店もあるので、むしろ何年も続けてくれると慣れてきていいですね。
- E委員 杉森は期末試験が終わったら1学期・東原は2学期というように時期がずれていると受けて側も大変ではないかもしれませんが、まとめや発表のことを考えるとやり方によっては3日でもかまわないのでは。都立の小論文の話もありましたが、自分から意見を言ったりすることができれば、それが力になり、学力向上につながるのでは。
- 毎年少しずつ杉森中のやり方も、独自のもの変わってきている。飲食店からもっと違う職業にも広げられたらいいが、その期間は仕事が少なく頼めない店もあるようです。しかし日程がバラバラだと安全面で心配がありますよね。いっぺんにステップアップしなくてもいいのでは。前後の取り組みが大切だと思います。学校の時間的バランスも考えた取り組みをしてほしい。個人的には3日でも十分だと思います。今のままでもいいのでは。
- C委員 19年度文部科学白書で「5日間以上の職場体験」ということをうたっていますね。体験そのものを少なくするのは難しいのでは。正義感・規範意識の向上につながるというデータが何度もでできます。
- B委員 環境設定を変えない限り、5日間体験するのは無理なのは。しくみや考え方を変えないと…。
- F委員 5日間必ずというなら、前後の授業はどうすればよいのかということのを区にきいてみたらいいのではないのでしょうか。
- C委員 キャリア教育は全体として考えることが大切です。総合的学習の時間・道徳の時間をつかいながら、事前授業をやっていくのがよいのではないですか。
- B委員 教員がつかないといけない。臨時的な委嘱を受けた職員ではだめなのか。学校支援本部などの手を借りてもよいのでは。
- 司 会 次回学校側でも夏季休業中の困難点などをまとめていただければと思います。